

2017 年 6 月 24 日



神保町のオフィスビルにて ワークショップが開催されました



吉岡純希先生

講師は慶応義塾大学 SFC 研究所の吉岡純希先生にお願いしました。さらに3名のサポートスタッフが実際に指導に当たる形でセミナーが始まりました。

参加者は13名で作業療法士、義肢装具士そしてその学生さんがほとんどでした。講義ではデジタルファブリケーションについての基礎知識と3Dプリンターを活用するためのCADデザインの基礎的な操作方法を学びました。ほとんどの参加者はPCで3Dデザインを行うことが初めてでしたが、吉岡先生とサポートスタッフの丁寧な指導のおかげで、楽しく学び、理解することができました。



実際に使ってみる

～キーホルダーを製作～

3D デザインはフリーソフトの“TINKERCAD”を利用しました。

まずは参加者全員が思い思いにデザインしたキーホルダーを会場に用意した3台の3Dプリンターで製作しました。その過程で、デザイン、データ出力、3Dプリンターを用いた物作りを学びました。

続いて応用編として、手持ちのペンのサイズを計測した上で、手に障がいのある患者さん用の自助具のデザインをそれまでに学んだスキルを活用してチャレンジしました。

最後に医療現場で活用するための、安全性などに関する講義がありました。特に素材（フィラメント）に関して、患者さんに使うにあたっての注意点や material safety data sheet の確認等の説明は非常に参考になりました。素材の種類も多数あり、使い分けることで様々なものを作り出せる可能性を感じました。

講義終了後は臨床で応用していくにあたっての

様々な質問があり、白熱した時間となりました。

最後に参加された皆様にアンケートをお願いし、

4時間のセミナーがあっという間に終了してしまいました。

「医療スタッフのための3D Print Workshop」アンケート結果（一部抜粋）

Q 今回のイベントにつきご満足頂けたでしょうか。

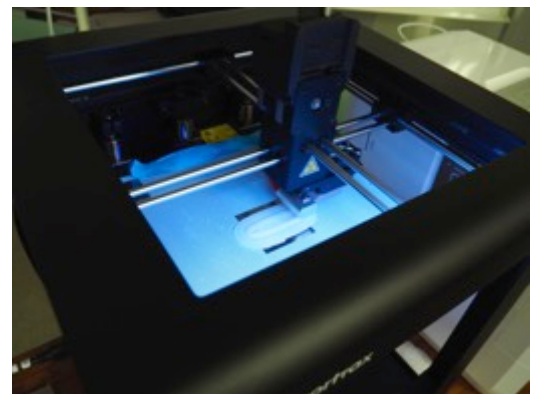
とても満足	満足	普通	やや不満足	不満足
6件	4件			

- ① 高価なので取り掛かりにくいという先入観を払拭できた。
- ② 初めての体験であったが、想像よりも簡単に使用できるということを知り、今後自分でも使ってみたいと思った。
- ③ 内容も実践的でわかりやすかった。

Q 本イベントに参加したことで、今後皆様の現場において様々な意味でよい変化が期待できそうですか。

とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない
3件	7件		

- ① 3Dプリンターにはまだまだ解決すべき問題はありますが、今後の医療現場に変化をもたらす可能性は強く感じた。
- ② 本イベントにより、これからは3Dプリンターのメリットをどのようにしたら患者さんに活かせるかという視点で普段から患者さんと接することができるとは思いました。



本イベントは平成 29 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 として開催いたしました。

作製：2017.07.01 一般社団法人 ハビリスジャパン